

特集

頸部救急に 首ったけ

頸部には気管・食道，主要血管，脊椎・脊髄といった生命維持に直結する重要臓器・構造が密集しており，一見軽症にみえても重篤な転帰をたどる外傷や疾病が少なくありません。気道閉塞や血流障害，神経麻痺といった複数のリスクが同時並行で進行し得る点でも，頸部は救急診療においてきわめて難しい判断が求められる，いわば「怖い」部位であるといえます。

一方で，頸部は，診療科の専門分化が進んでいるがゆえに，初療段階で対応する専門科の選択に悩む領域でもあります。咽頭・喉頭は耳鼻咽喉科，頸椎は整形外科や脳神経外科，甲状腺は内分泌内科……。個々の部位・臓器の専門家は明確でも，「首が痛い」「首をぶつけた」「首が腫れてきた」といった非特異的な主訴の患者に対して，どの順番でどの診療科がどのように評価・対応すべきか，即座に判断することは容易ではありません。そのため，初療を担う多くの救急医が，頸部の疾患に対して見落としの不安を抱きやすく，過剰な検査やコンサルトに陥りやすいのが現状ではないでしょうか。

このような背景を踏まえ，今号の特集「頸部救急に首ったけ」では，診療科別ではなく，「頸部」という部位そのものに焦点を当てて，救急現場で遭遇しやすい病態を横断的に整理することを目指しました。総論として頸部救急に共通する診察・検査・手技の基本的ノウハウが，各論として内因性・外因性の頸部救急疾患の診断・治療・管理の実践がまとめられた，実臨床に直結する特集号となっています。

頸部救急には，もう，ビビらない。

読者の皆さまがそんな意気で診療に臨むことができるよう，本特集が役立てば幸いです。

特集企画エディター

関西医科大学総合医療センター救急医学科

島崎 淳也